

# タイの陶芸家、1年間の研究成果を発表

## 笠間市で修了制作展

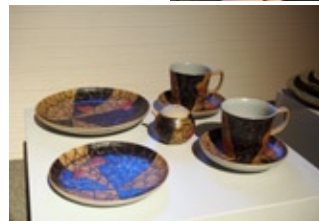
2018年4月に来日、茨城県立笠間陶芸大学校に研修生として入校したタイ・メーファールワン財団の陶芸家、ティップワン・ドゥアンドクムン（愛称ユウ）さんの「タイ王国陶芸家修了制作展—笠間焼国際交流事業成果展示」が3月5日から12日（11日は休館）まで、笠間市のかさま歴史交流館「井筒屋」で開かれています。

笠間市は2015年にIFFFの仲立ちでメーファールワン財団と陶芸に対する協力関係強化の覚書を締結し、笠間焼の陶芸家を派遣し、タイの陶芸家を招く相互交流をしていました。今回は初めて、ユウさんが1年間の研修生として、笠間市に派遣されました。

ユウさんは、1年間にわたってろくろ成型などの笠間焼の技術を習得するとともに、マカダミアナッツの釉薬の研究を行ってきました。修了制作展には、器やオブジェなど約180点の作品を一堂に展示。鳥やゾウをイメージし、自然が育む成長をテーマに制作したオブジェ「堅固—持続的な成長」。マカダミアナッツの釉薬を使った「菩提樹」シリーズの器。大学校の課題として取り組んだ染付皿やろくろ成型の作品が並んでいます。

マカダミアナッツは、メーファールワン財団が麻薬撲滅のためにケシ畑に植え、その殻は、燃料として燃やされていました。この燃えた殻を釉薬として生かしたいというのがユウさんの研究テーマの1つで、大学校では「釉薬として優れた素材になる。ユウさんがこの釉薬をものにし、タイに戻ってオリジナルの釉薬を開発してほしい」と話していました。

2019年3月6日



茨城県陶芸美術館  
でも同時期展示中

